

会 議 録

会議の名称	上三川町総合教育会議
開催日時	令和2年10月28日(水) 午後3時00分開会 ・ 午後4時00分閉会
開催場所	上三川町役場3階大会議室
議長(委員長・ 会長等)の氏名	町長 星野光利
出席者(委員等)の 氏名・出席者数	星野光利 町長 氷室 清 教育長 清水智生 教育長職務代理 吉田由美 教育委員 関 美恵 教育委員 松枝健一 教育委員                      出席者 6名
事務局職員 の職・氏名	総務課長 石崎 薫、総務課長補佐 保坂武志、 総務課総務人事係長 小池克之、生涯学習課長 星野光弘、 生涯学習課長補佐 深谷 昇、生涯学習課生涯学習係長 諏訪満里、 教育総務課長 吉澤佳子、教育総務課長補佐 青柳政克、 教育総務課長補佐兼指導主事 渡辺友見子、 企画課総合政策係長 後藤隆浩、企画課総合政策係主査 薄井大樹
会議次第	議事 (1) 教育大綱について (2) 折り紙普及啓発について
配布資料	議事(1)(2)に関する資料

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
総務課長	<p>○ 皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から、令和2年度第1回上三川町総合教育会議を開会いたします。</p> <p>○ 本日の司会を務めさせていただきます総務課長の石崎です。よろしくお願いいたします。会議に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。配付しております資料は、会議次第と資料1「上三川町教育大綱（案）」、資料2「ORIGAMI×かみのかわ未来シナリオ」、資料3「ORIGAMIのふるさとかみのかわプロジェクト」以上となります。よろしいでしょうか。</p> <p>○ それでは早速ですが、次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、星野町長からご挨拶を申し上げます。</p>
町長	<p>○ 教育委員の皆様には、ご多用の中お集まりいただきありがとうございます。今年にはコロナウイルスの流行で、多くの国民が不自由を強いられているところ。町のイベント等も軒並み中止や縮小を余儀なくされており、当然学校や地域においても、人と人との交流が限定的にならざるをえませんでした。</p> <p>まだまだ、この不自由さは続いていくこととなりますが、町としても万全の体制を整えながら、インフルエンザ等の流行にも対策をとっていきたくと考えております。</p> <p>今日は、協議事項が2点ございます。教育大綱の見直しなどが提案されることとありますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂いて、よりよい教育環境づくりを進めてまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
総務課長	<p>○ では次に、次第3の協議事項に移らせていただきます。協議の進行については、星野町長にお願いをいたします。</p>
町長	<p>○ それでは、暫時の間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。早速、協議に入らせていただきます。</p> <p>○ まず、協議事項の一つ目でございます「教育大綱について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>

○ 教育総務課の渡辺と申します。着座にて説明させていただきます。それでは、上三川町教育大綱の改定についてご説明させていただきます。資料1を御覧ください。1番「教育大綱改定の趣旨」でございますが、本町では、平成28年に、国や栃木県の「教育振興基本計画」を参酌し、町の「第7次総合計画基本計画」を基に大綱を策定しましたが、策定から5年が経過し、国や県の新たな計画はもとより、町も、地域の特性を踏まえた、新たな総合かつ計画的な行政運営を進めるための、後期基本計画が策定されるというタイミングで改定を考えた次第です。また、このコロナ禍による新たな日常の推進など、日常生活やこれまで当たり前と思われてきたことに、より一層の変化を求められるようになったことなども、改定の一因となっております。

2番に「大綱の位置づけ」を整理し、2ページの3番では対象期間を、総合計画との整合性をとる意味からも5年間といたしました。3ページの4番では基本理念として『「学び合い、育ち合い、つながり合う」教育の町づくり』といたしました。これは、これまで定例教育委員会の中で、町の小・中学生の実態や、生涯学習に関わる利用者や施設の状況などを説明させていただきました。その中で、子どもから大人まで、町民一人ひとりの成長や歩みに応じた多様な学びを円滑につなぎ、その学びが地域とつながり、学びの成果が生きる社会の構築を目指すことが、これからの町づくりに重要であると、意見の一致を見たことから、このような理念に結びついたものです。4ページをお開きください。5番として「目指す人間像」を掲げました。理念のもと、どのような人づくりをしていったら良いのか、具体的なイメージを描けるように、(1)生涯にわたって自ら学び、自ら考え、行動する人(2)豊かな心と健やかな体を育む人(3)多くの世代と交流し、他者との関わりを大切に  
する人(4)様々な問題の解決に向け、他者と協働して、進んで社会に貢献できる人の4つの具体像を掲げました。次に、6番として基本的方向性を示しました。平成28年の教育大綱にはこれらうたっておりませんでしたが、より円滑な学校教育・生涯学習施策が推進できるよう、これから先の時代を

読みつつ、今後の方向性を明記すべき必要があると考え、理念に沿った、7つの基本的方向性を示したものです。

まず学校教育では、基本的方向性1番として「子どもたちが、自ら人生を切り拓いていくことができるための学力の三要素の定着を目指します。」としました。学力の3要素とは、平成28年12月の中央教育審議会答申で示された「①基礎的・基本的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性などとした主体性・多様性・協働性」を示すものです。具体策の主なものとしては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた創意ある教育活動の展開・児童生徒が学びの主体となる授業づくりの推進・国際化社会に対応した英語教育の推進」などを掲げました。基本的方向性2番としては、「これからの社会で、人間として成長できる力を育む学びを推進します。」とし、子どもたち一人ひとりに配慮しながら、心と体の成長や、自立に向けた教育が展開できるように示しました。具体策の主なものとしては、「児童生徒理解に基づく児童・生徒指導及び教育相談活動の充実・自己教育力・自己学習力の育成・特別支援教育の充実」などを掲げました。基本的方向性3番としては、「教育諸条件の充実を図るための環境整備を推進します。」として、今後の教育環境づくりに言及しました。具体策の主なものとしては、「安全で安心な学校づくりに向けた環境の整備推進・義務教育9年間を見通した教育環境づくりの推進」を掲げました。

次に、コミュニティスクールなどを本町でも取り入れていることから、今後、より一層「地域と学校のつながり」に目を向けるべきと考え、別立てで項目をおこしました。「子どもの人間力・社会力育成に向け、学校・家庭・地域がともにつながり、地域全体の教育力の向上を目指します。」を、基本的方向性の4番としました。経済産業省で示された「人生100年時代の社会人基礎力」では、「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」の3つの能力が今後より一層重要であるとされており、特に、学校教育の場においても、多様な人々と共に、目標に向けて協力する力の育成に向け、「地域の人々

と教職員との協働による学校づくり、コミュニティスクールの推進・体験を伴うキャリア教育の推進」などを具体策として掲げました。

次に「生涯学習」について説明します。基本的方向性の5番として、「学びの場を通じた人づくりや住民相互のつながりによる持続的な地域づくりを推進します。」としました。具体策の主なものとしては、「生涯学習活動（生涯スポーツ、文化芸術）の支援・中央公民館事業の充実・自ら学ぶ環境づくりの推進」などを掲げました。基本的方向性6番として芸術・文化の振興に向け「地域の歴史や文化を活かした魅力ある町づくりを推進します。」としました。具体策として、「地域の文化財の保護と活用に関する計画の推進・貴重な文化遺産・芸術遺産（折り紙等）を含めた町づくりの推進」などを掲げました。6ページをお開きください。基本的方向性7番として、スポーツについて「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進とその環境整備を推進します。」としました。具体策として、「スポーツ関係団体等の支援・ライフステージに応じたスポーツ活動・教室の充実・スポーツ指導者とスポーツボランティアの育成・放課後や地域における子どものスポーツ機会の充実」などを掲げ、スポーツ活動の発展に向け、国体後も充実を図っていくべき内容を示したところです。

最後になりますが、7ページには、第7次総合計画と今回の基本的方向性との関連、また各種計画との関連などを示した図を掲載しました。今後、町の後期基本計画が出来上がってきますので、でき次第、改めて関連付けをしていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

町長

○ 説明が終わりましたが、ご質問、気が付いた点がありましたらお願いします。

関委員

○ 今回の基本理念に関して感じたことです。現在コロナ禍の中で「つながり合い」がだいぶ少なくなって、世代に関係なく皆さん強くつながり合いを求めているなと感じました。いろいろなことをやっていく中で、地域のつながりが今回ほど大事なんだなということを、今回改めて思いました。例えば、

	<p>イベントにしても、年配の方はすごく楽しみにしていて、会うと「あ、これがなくなっちゃったんだ。」と。今まではそういうイベントで季節を感じていたり、そういう場で会うことで情報交換をしあったりしていたことを感じました。子どもたちも、修学旅行や運動会など、ものすごく学校行事を考えて取り組んでいたと感じました。特に、運動会を見ていて子どもたちの表情が変わりました。やはり、目的を持って何かに進んでいくことで、今まで平坦に生きていたのが、時間軸を考えて仕上げていくなどの取り組みを経ていくことで、経験というのは本当に大事なんだと改めて思いました。基本理念に謳っている「つながり合い」というのはそのようなことから大切なんだという、自分自身の思いです。</p>
松枝委員	<p>○ 基本的方向性の3にある「安全で安心な学校づくりに向けた環境の整備推進」ですが、学校も結構古くなっているところが結構あって、危ないなと思うような場面やちょっと雨漏りして滑って転んだりしないか、など心配なところがあります。ここも予算の面が厳しいとは思いますが、点検して整備し、子どもたちが大けがしないように進めていただけるとありがたいなと思っています。</p>
吉田委員	<p>○ 先ほどの関委員さんの意見と似通ってしまうのですが、やはり今年度コロナウイルス感染症のために町のイベントがすべて中止ということで、やはりそれを楽しみにしていた町民の皆さんもいらっしゃる中で、これから先来年度どうしていくんだろうというところで、今も計画を立てていらっしゃるところだとは思いますが、そのような所を含めて町長さんのお考えをお伺いしたいと思うのですが、どうでしょうか。</p>
町長	<p>○ では、ちょっと教育大綱の話は置いておいて、来年度以降の（吉田委員が再発言）</p>
吉田委員	<p>○ あ、そこですね。教育大綱とつなげると、生涯学習になると思うのですが、町民一人一スポーツといってもグランドゴルフ大会がないとか、結構高齢者の意見も伺うのですが、来年度開催していくような状況になればいいですね</p>

町長	<p>ど、その開催に向けた準備段階というか、開催に向けてこう考えているんだなど、お考えがありましたらお聞かせいただければと思います。</p> <p>○ まだ来年度の予算が固まっているわけではありませんが、来年に向けてはこの新しい生活様式に沿った形で、要するにコロナウイルス対策を講じた上で、できる限り前の方法に戻していきたい。先ほど関委員からもありましたように、つながりの部分で、いまだいぶ少なくなってきたために、お子様もそうですが、お年寄りなども心身ともに良くない影響が見られています。上三川町は今現在感染者が3人ということです。全国では98,000人以上、栃木県では昨日現在480人を超えたという中で、上三川町は皆さんの協力のおかげで比較的感染が少なく抑えられていますが、今こそ注意しながら、なるべくつながりの部分も含めて、今までのような形に戻していきたいと考えています。それを行うためには、いろいろな部分で考えていかなければならないところはあると思いますが、全部中止にしたことで弊害も見えたので、私として少しでも、これまでの形につなげていきたいな、と思っています。</p>
清水委員	<p>○ 質問というか、私のことになってしまうのですが、私は、本郷中学校の方でコーディネーターをやっているんですが、3年前からコーディネーターとして計画していたことが校長先生が代わったことで、やっと去年ぐらいからこうしたいとかいうことが実施できるようになったんです。校長先生次第でいろいろなことが変わってしまうのかなと。以前の校長先生は、子どもたちを外に出したくないような、何かあった場合のことを口に出されたのですが、こちらの思いとは平行線ができてしまっていたんですが、新しい校長先生になってから、やっとコーディネーターが思っているようなことを、どんどん生徒とともにできるようになったんです。ですから、校長先生によっても地域とのつながりの善し悪しが出てくるのかな、というのが私の感想です。あと、基本理念のところ、「地域や社会をよくするために何をしたら良いか考えますか」「自分には良いところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問で、30ポイントも下回っている、生徒一人ひと</p>

教育長	<p>りの自己肯定感や他者への貢献精神、精神的なゆとりが、学力と相関があると言えます、と書いてありますが、このあたりをもう少し詳しく聞きたいです。その要因ですよね。説明いただければと思います。</p> <p>○ これは、学力調査の結果で、国社数理英の中の国数英について上位中位下位と4層に分け、上位と下位の子どもにはずいぶん差があり、この下位層の中に自己肯定感が低い、つまり質問で回答にマイナスをつけている子が多い、「人の役に立つ人間になりたい」と思う子が下位の層には少なかったと数値にしたものです。学力の差が点数ではなく、ポイントとなっているんですが、100%として表すと下位は上位に比べ30ポイントも低くなっている。人の役に立ちたいと思っていない子は、学力も30点低いよ、と示したんですね。</p> <p>概して、すべての層が同一数で平均したというのではなく、上位層は何%の数が出て、下位層が何%いてなど、当然母体数が違うのですが、そういう結果をとっても学力差によって自己肯定感に違いが生じている、というグラフなんですね。これは、前回お示ししたグラフにあるものなので、今手持ちではないのです。</p>
清水委員	<p>○ 実際、学力の低い子が自己肯定感が低いかというのは、そうなんですかね。必ずしもそうではないと感じているんですが。</p>
教育長	<p>○ 相対的な数値の中ではそういう結果が出てきている、ということです。学力と質問紙を組み合わせたクロス集計の結果なので、単純なグラフにはならないのですが、比べてみると30ポイントの差が出ているということなんです。</p>
清水委員	<p>○ 理由は、それだけではない。</p>
教育長	<p>○ それだけではないですよ。この回答調査の項目をしてみる限りそう言える。これは全部の調査項目の中のいくつか特徴点のあるものを取り出しただけの話なので、それが必ずイコールで自己肯定感に結びつくものだ、ということではないかもしれません。</p>

清水委員	○ 教育長としては、またこんなことも原因ではないかというように、考えられることはありますか。
教育長	○ そうですね。先ほど、「つながり合い」というところで、地域との協働の話もありましたけれど、私は学校というのは地域に浮かぶ船だと思っているんです。地域が安定していなければ、船もきちんと海の中を航海できないと思うんですね。逆に船がきちんと推進するためには、地域がきちんとしていなければならない。海と船は協働的というか、お互いが存在して成り立っていくものだと思っています。ですから、校長が代わる度にということをおっしゃいましたけれども、そうではなくて、学校全体が地域で子どもを育てる、学校も地域に協力していく、そういう関係の中で家庭でも救われなかった子どもが地域によって救われるということは多々あると思うんです。今は、どうしても地域の子もたちが、核家族化が進んでしまったという所もあると思うのですが、家庭の中だけで育てられるような感覚になっていると思います。いろいろな大人の目がいなくなったとか、行き届かなくなったということで、どうしても人間らしい成長ができなくなっているところがあるのかなあ、と思うのです。自己肯定感なんていうのも、昔でいえばいろんな大人の人によって誉められる部分というのがたくさんあったのではないかと、それが単純に家と学校だけという関わりだと救われないうちもいるのかなと。逆に厳しく教えられる部分もたくさんあると思うんです。そういう関わりを大事にしていきたい。自己肯定感をそうやって高めていきたい。これからの学校教育、そのような進み方をしていくのが良いのかな、と私は思っているんです。
町長	○ 大綱ですので、今日全部決まるわけではないんですが、町の総合計画がございますから、それに沿うような形で大綱を決めていただいて、その下にこの細かい計画案ということで、皆さんの考えがこの大綱に活かされていけば、それが具体的な施策になっていきます。そういう意味で、この大綱で良しとするのか、いかがでしょうか。

<p>関委員</p>	<p>○ 生涯学習の中で、中央公民館の利用者が年々減っていることで、建物がどうしても古く高齢者が使いづらい状況になっているというところもあると思うんですね。ただ全てに予算が関係することなのですけど、今、中央公民館で新しいことをされていて、イラストなど今までなかったこと、例えば、昔より今の子どもたちの時代に求められていることや行事が増えていて、ありがたいなと思ったので、中央公民館の充実というのは年代を問わずすごく大事なことだと思いました。</p>
<p>町長</p>	<p>○ ご意見よろしいでしょうか。具体的施策に関しましては、この先教育委員会の中で詰めていただきますが、上三川町の教育大綱については、概ね本案のとおりとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(教育委員全員うなずく)</p> <p>○ 今後ご意見などございましたら、別の機会や毎月の定例教育委員会でお話しいただければと思います。</p> <p>では、教育大綱の見直しについての協議を終わらせていただきます。</p> <p>○ 次に、協議事項の二つ目「折り紙の普及啓発について」を議事とします。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
<p>企画課総合政策係長</p>	<p>○ 企画課総合政策係長の後藤と申します。よろしく申し上げます。着座にて説明させていただきます。本日お配りしました資料2の他にカラー刷りのものがございますので、始めにそれについて説明させていただきます。その後資料2について説明いたします。</p> <p>こちらをお話しするに当たりまして、昨年度町の方で人口ビジョンというものを作成してございます。この人口ビジョンの中で、取り上げました人口シュミレーションというものがあるのですが最悪のケースで見た場合に、今後35年間の内に人口が一万人減ってしまうということが示されています。</p> <p>このシュミレーションが現実のものとならないように、将来にわたって活力のある上三川を作っていくということで考えていったときには、所謂地方創生というものが欠かせないというふうに私どもの方は認識しているわけで</p>

す。その地方創生を進めるに当たって考えているのが、本町にしかない強みというものをあぶりだしていく、そこが重要かなと考えています。例えばですが、本町にしかないものを強みということにできれば、それに関心を持った方々が本町にやってくるようになるかなと思いますし、そういった方々が本町に関わる方、関係人口みたいな形になってくれると思います。もちろん、移住や定住などといったところにも繋がってくるのではないかと考えています。そういう方々が増えれば、町に人の流れもできますし、活気もあふれるというふうに思っています。そういう上三川の強みということで今回選択したものが折り紙ということになります。今回お配りしたカラー刷りの資料に、まだ案という文字がありますが正式に決定したものではありません。それを踏まえた上で、説明させていただきます。

まず、資料の上の方にある基本構想の3行目にございますが、本町は創作折り紙の第一人者と称されております吉澤章氏の出身地で、折り紙にゆかりのある町でございます。折り紙は、年齢・性別に関わらず幅広い年代で親しんだり、楽しんだりできるものであり、折り紙の持つポテンシャル、これも又非常に高いものがあると考えております。教育であったり、医療であったり、文化であったり様々な分野で活躍できる可能性を秘めているもの、それが折り紙であるという認識を持っております。この折り紙を上三川町の強みとして、進めていくプロジェクトそれが「ORIGAMI×かみのかわ未来シナリオ」というようなものになっております。下のイメージ図をご覧ください。「上三川町が目指すべき姿"ORIGAMIのまち かみのかわ"」と書かれておりまして、その下の所緑色の所とオレンジ色の部分とがあるかと思えます。実はこの折り紙の町上三川づくりということなんですが、こちらは二つのカテゴリーに分けて進めていきたいとして検討を進めております。左側の緑の吉澤章氏による創作折り紙の部分、もう一つは右側のオレンジのその他の折り紙という部分。吉澤章氏は、伝承折り紙のような明確な基準で作られている再現性の高い幾何学的な造形というものに関しては、否定的な立場をとっている

ところがございますので、今後町の事業として進めていくにあたっては、一般的な折り紙とは差別化をしながら進めていったらいいだろうと考えましてこのような形を検討しているところでございます。

続きまして、今後のスケジュールということで説明させていただきます。この折り紙の事業なんですが、今年度立ち上がったばかりのものになっておりまして、具体的な計画今のところ何もない状態になります。そこで、今年度は、その折り紙の町として実施していく事業の計画、こちらを策定していくという予定になっています。

皆様に事前にお配りしました資料の2にですね、「ORIGAMI×かみのかわ未来シナリオ」ということで未来の町を作るアイデア会議を実施しましたという記載があるのですが、こちらが事業立案のための第1回会議ということになります。この会議では、町の若手職員それから一般の方を公募で募集させていただき、たくさんの方からご意見を頂きまして、資料の裏面についておりますように、A暮らし、B健康福祉子育て、C教育文化スポーツなど様々な分野で、いろいろなご意見を頂いております。こういったご意見を参考にしながら、今後詰めていきまして、事業計画の策定に向けて動いていきたいと考えているところです。現状としてはそのような形になっております。

生涯学習課長補佐

- それでは、引き続き教育委員会で進めているプロジェクトにつきまして、生涯学習課長補佐の深谷から説明させていただきます。
- 資料の3をご覧ください。「ORIGAMIのふるさとかみのかわプロジェクト」ということで、こちら教育委員会の方で作成させていただきました。こちら前段の吉澤章先生の評価につきましては、先ほど企画課から説明のあったとおりです。教育委員会におきましては、平成22年よりご遺族から本町へ作品の寄贈が継続的に行われておりまして、町の公共施設のいきいきプラザや図書館での展示や町文化祭において展示されてきたところです。しかしながら、氏の作品の美術的な世界的評価に比べますと、十分に生かされていないということから貴重な財産を、教育委員会としまして学校教育、生涯学習の

分野で有効活用する施策について総合的に構築するため、今年度内部でプロジェクトチームを作りまして検討をしてきました。会議については3回行いまして、生涯学習課、教育総務課、中央公民館の合計5名で検討を進めたところです。2番として、折り紙の可能性ということで先ほどの説明と重複しますが、一つに芸術的な価値、2番目に教育的効果、これにつきましては戦前戦後は、折り紙は模倣性が高く、折りを何度も繰り返すということで否定された時期もあったのですが、近年は教育的効果の高さというのは認められているところです。3番目に工業・医療などの科学技術への応用ということで、折り紙につきましては、例えば宇宙船の太陽光パネルのたたみ方など様々な分野で応用されていることです。このような可能性について、実際に見る、作る、そして吉澤章先生を学ぶことによりまして、紙一枚で、誰もが簡単に挑戦できる文化活動、そして色彩感覚、想像力、集中力や論理的思考力、空間把握力が向上することができる。そして、郷土を愛する人材の育成ということで、世界に誇るべき人材である吉澤章先生、13歳で上三川を離れていたのですが、それ以降郷土上三川をこよなく愛して、自分の折り紙の原点は上三川にあるということを言っていた方で、そういう先生の生き様を学ぶことで、郷土を愛する人材の育成を図ることがねらえる。そして、様々なイベントの実施に伴う交流人口の拡大ということで、折り紙の潜在的能力の高さ、海外でも非常に知名度が高いということで、こうしたことが効果としてあげられるということです。

具体的施策として大きく四つの分野で行うという計画です。

一つに町民への普及啓発に関する事業ということで、既にAにつきましては実施しているもので、中央公民館で吉澤章折り紙教室の開催ということで、創作折り紙の普及啓発をする事業を継続実施したいと計画しております。2番目として、吉澤章創作折り紙普及指導員の養成ということで、町民の皆様や学校現場で広げるためには、人材の育成が急がれるということで来年度より実施したいと考えています。3番目として、ふるさと上三川の偉人顕彰事

業の実施ということで、吉澤章先生の事業を推進していく上で、その功績を広く町民に周知するためにこのような事業を行いたいと考えております。四つ目として町内イベントにおける折り紙ワークショップの実施ということで、皆様に折り紙にふれあう機会を創設するというところで、令和5年度より実施、機会があればインターパーク宇都宮南などで、広く町外の方にも折り紙に触れていただく機会を創設したいと考えています。その後令和6年度より創作折り紙の日として、吉澤章先生の生まれた日と亡くなった日が同じということで、3月14日をその日として周知をしたいと考えているところです。

2番としまして、吉澤章作品の展示に関する事業ということで、継続実施ということで町立図書館での作品展示、テーマを決めた学校巡回展ということで、学校現場で児童生徒に見ていただく。そしてゆくゆくは、常設の作品展示施設の整備をして多くの方に見ていただく考えです。

三つとして、折り紙を生かした活性化に関する事業ということで、まだ国内にそんなに折り紙に関する事業が多くないということで、折り紙フェスティバルや折り紙芸術祭の開催など段階的に徐々に参加者の範囲を広げていくことによって、ゆくゆくは交流人口の拡大を図ることを目的に事業の方を展開したいと考えています。

4番目には、学校教育における施策です。これは来年度より開始を予定していきまして、折り紙を楽しむ、そして既に行われていますが郷土の偉人として吉澤章氏を学ぶ、そして高学年におきまして創作物を楽しむ、中学生につきましては折り紙による社会貢献活動ということで、折り紙の千羽鶴などで災害避難者等を応援するような事業を実施するということですが、今後変更の可能性ありと書いてありますが、実際学校現場でもう一度学校の先生方にいろいろ検討いただきまして来年度から段階的に実施していくという予定です。

説明の方は以上でございます。

町長	○ 説明が終わりましたので、ここからは皆様の自由なご意見をお願いします。 ○ これちょっと一つ聞いていいですか。インターパーク宇都宮南ってどこでやるんですか。
生涯学習課長補佐	○ これは、福田屋の催事場とかそういう所を借りてですね、町が折り紙の町だということをPRするイベントとして実施したいというものです。
関委員	○ 折り紙の町づくりということなんですけど、他の市町村でもこういった取り組みをしているところはあるのですか、それとも町独自のものなのでしょうか。
企画課総合政策係長	○ 近隣ですと、小山市さんでそういう折り紙を使ったイベントをやられているというようなことはあるようなのですが、折り紙の町でいうと私の知っている限りではこの近隣では少なくともないと思います。この取り組みを進めることで特色のある町づくりができるのではないかと考えております。
松枝委員	○ 折り紙教室とかは結構やられているんですか。
生涯学習課長補佐	○ はい。中央公民館にて実施しているところです。
松枝委員	○ 広報みたいなものも結構されているんですか。
生涯学習課長補佐	○ それにつきましては、広報かみのかわやかみたんメール等を使って周知しているところです。
松枝委員	○ 家の子らも、もう高校生のお兄ちゃんなんですけど、こんな（大きさを示し）小っちゃい鶴を折るんですよ。折り紙って結構年代問わずに、男女問わずに楽しめますし、非常にいいと思うんですね。いろいろこうもっと積極的に啓発していけるといいのかなあとと思います。
清水委員	○ 具体的施策のBなんですけど、創作折り紙普及指導員の養成とありますが、この普及員を養成するためのもっとお達者な方というのは、いらっしゃるんですか。
生涯学習課長補佐	○ はい。こちらにつきましては、吉澤章先生が創設しました国際折り紙協会というものがございまして、そちらから講師の方2名がいらして、現在折り紙教室もやっただいていただいているんですが、その方々にお願いして指導員を養

吉田委員	<p>成していこうと考えています。</p> <p>○ 企画課の方の様々なアイデアを拝見させていただいて、非常にユニークなものがあるので、若手の方のご意見って素晴らしいものがあるなど感じました。</p> <p>それで、申し上げにくいこともあるのですが、やはり折り紙イコール紙でするので、保存をするに当たっては湿度とかそういうものに敏感にならないといけないと思うので、常設の展示施設の整備が急がれるのではないかと思います。</p>
関委員	<p>○ 企画課の折り紙の方の「歩きたくなるまち 創作折り紙のイベント等」と書いてあるんですけど、私なども上三川町を歩きたいなと思ったときに、どこ歩いたらいいんだろうというのがあるんですよ。ポイントとか、年配の方が歩くならベンチとか必要だろうし、いろいろなことを考えたときに、これで折り紙と結びつけてどんなふうなイメージなのかなあ、と思ひまして、教えていただけたら。</p>
企画課総合政策係主査	<p>○ こちらは、町の内部で国土交通省の事業を使ったウォークブル推進都市というような、担当としては都市建設課になるのですが、その事業と連携しながら進めていこうということで、その推進の中で <b>ORIGAMI</b> というキーワードがありますので、それを絡めて歩きたくなる町のためにはどういうものがあるかなと、その一つとして折り紙を使いたいなと。そちらの方も今若手職員とか私もメンバーに入っているんですけど、会議等を進めておきまして、具体的にこういうのをやっていこうというのは、今協議段階ではあるのですが、意気込み的には、上三川イコール折り紙の町というものに努めていきたいと考えている次第でございます。</p>
関委員	<p>○ 折り紙と町のいろいろなもの、お寺とかと結びついて町全体が盛り上がる感じになるとうれしいですよ。</p>
企画課総合政策係主査 町長	<p>○ 今出た意見なども、これから発信していければと思います。</p> <p>○ 今のお話ですが、最初に企画課係長から話があったとおり、地方創生とい</p>

うことで町がストーリーを描くのですね。町おこし、町づくりと。そのストーリーに国の方が予算をつけてくれるという、そういうイメージがあって、その中で、折り紙を使った取り組みで町おこし、町づくりにつなげていきたいというものです。ウォークブルの話も、まだ具体的な国の施策にはなっていないんですが、ホームページで応募したんですね。うちの町が、イメージ的にはいきいきプラザから城址公園などのエリアの中に生沼邸などがあったりして、町の中を歩きたくなるようなものを作りたい、と出したら国土交通省の方から是非話を聞かせてくれ、と言われたんです。おとし・・去年か、都市建設課の職員と一緒に行ってきました。国交省の審議官というかなり上の人が私も聞きたいと、興味を示していただいて、うちの職員がサウナに入っているような汗を流しながら、一生懸命国交省の審議官室で説明をしてくれていました。その中で、国交省のホームページに全国のウォークブルの取り組みが載っているんですけど、町レベルでは上三川町だけです。それがどういうふうになるかは、まだ具体策はないんですけど、こういうふうなイメージを持っているということで、その取り組み例として全国に紹介されています。そういったことに今度折り紙を絡めて、いろいろな角度から町おこし町づくりを進めたいという考えがあって、単発で行くということではなくて、いろいろな考えご意見を伺って折り紙を使った町おこしをイメージしている所なんです。

教育長

- 先ほど、学校教育の話しが深谷補佐の方から説明があったのですが、明小の校長先生や上中とか、学校の7名の先生方が学校から推薦をいただいて、明日が第1回目なんですけど、明日から学校教育の現場でどう折り紙を広げていくかという話し合いを行うんです。これを今年3回ぐらい設けて、その後学校教育の教育課程に総合的な学習の時間というのがあるんですけど、その中に地域によっては「人間科」とか「地域科」とかいろいろあるんですけど、新しい科目を作るものがあるんですね。もしかしたらその中に「折り紙科」とかそういうものを作ってもいいんじゃないのかなあと提案しながら、学校教

<p>関委員</p>	<p>育の中できちんと位置づけたいなあと思って今計画をし始まっているところです。そんな話しも明日から始まりますのでご報告できるときにはしたいと考えています。</p> <p>○ 学校教育におけるところで、④で最初折り紙を楽しむ、高学年になると創作物を楽しむ、ということになると吉澤先生みたいなああいう形のものを言っているのですかね。まだ試行段階なのでしょうけど、どういう感じで進めていくのかなあと思ひまして。</p>
<p>生涯学習課長補佐</p>	<p>○ 今考えておりますのは、児童会主催で学校イベントや季節の行事に合わせたときに、題材を定めて、児童生徒一人一人が作った作品によって、まあ吉澤章先生の作品は単体でももちろん楽しむんですが、作品全体で絵画的な形・姿をしてジオラマみたいな形でやるというのがあったので、そういうことを皆で力を合わせてやるというのもひとつ良いのではないかと、ということでこちらに記載をした次第です。</p>
<p>町長</p>	<p>○ この資料3の今後のスケジュールの中で、折り紙フェスティバル、芸術祭が令和9年から開催とありますが、遅い。こんなスケジュールじゃなくて、もっとスピードを上げて。こういうPRをすることによって、全国に発信するいいチャンスだからもっともっとスピードを上げていこう。検討してください。今はもうネットでいろいろ出来て、葉書を送ったりとかじゃないのでもっとスピーディにお願いします。</p> <p>○ それでは、皆様からご意見大丈夫でしょうか。</p> <p>(教育委員全員うなづく)</p> <p>ありがとうございました。まだ具体策が定まっているわけではないので、これから多くの町民に意見をいただきながら進めていきたいと思ひますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは協議は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>○ ありがとうございました。それでは、これもちまして、本日の会議は閉会とさせていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。</p>

